

「新入生へのメッセージ」の欄に。

2013年スローガン
～広報部を、ぶっ壊す。～
過去の慣習を捨て、新たな広報部へ

誰にも気が付かれない、地味な存在かもしれない。
目立たないのなら、目立たないなりに、目立つために
思いっきりやろう。

～活動内容～

1. 取材内容を考える！

なぜ？どうして？もっと詳しく知りたい！
みんなに知って欲しい！
というひらめきを具体化します。
広報部員から**広報部記者**になります。

2. アポイントメントを取る！

通称「**アポ**」。面会の約束を相手と
することです。インタビューの際、
決して欠かすことのできないこと
です。

3. 取材をする！

例えば、
新任の先生に意気込みを語って頂
いたり、学校の歴史について校長
先生にお話をうかがったり...

4. 写真を撮る！

記事が文字だけだと、読者は内容を理解するどころか、目にも止めてくれません。文章中に、取材風景や現場の写真や図を入れることで、より分かりやすいものとなるように努力します。

Canonの一眼レフカメラ
を使います！

5. 記事を書く！

記事を書くときのポイント、それは、「消しゴムを使わない」ことです。消しゴムは記者の発想力さえも消してしまう、恐ろしいものなのです。詳しくは入部してから、ご説明します♪

6. パソコンに入力！

広報部では、Apple社のMacを使い、記事をデータ化します。大まかなレイアウト（記事の配置）を決め、ディテール（細部）は、業者の方にお任せします。

7. 記事の最終チェック！

誤字・脱字の訂正や、レイアウトの変更などをします。
これでようやく、**記事の完成**です。



8. 記事が読者の元へ！

記者の書いた記事が掲載されるのは、年5回発行の学報、年度未発行の学友、そして文化祭新聞です。
今後、発表の場をどんどん増やしていく予定です。

～ 広報部の活動実績～

広報部の記者が書いた記事
学報第号「」 **PDFのURLを貼付**

活動場所：広報部室（文化部室1）

活動日：金曜日



広報部は、あなたをいつでも、いつまでも待っています。



次回取材予定地の見学中。広報部員が同じ方向を向くことは許されません。実際にではなく、気持ちの問題です。



広報部員は、記者へと変化する。それぞれの考えを、各々の方法で表現する。他人と意見が被ることは許されない。でも、被ることも多々、というか、ほぼ被る。理想と現実はいコールではないのだ。